

2019年度自己評価及び学校関係者評価

1. 学校の教育目標

地域医療・地域福祉の最前線を担う即戦力となる人材を育てる

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

学生の学修を、学科を超えて支える

～教職員一人ひとりが、自分と相手の特性を理解し、学生の成長のために協力し合う～

学生も教職員も一人ひとり異なった特性・個性を有している。それぞれが得手・不得手を持っている。これを強みととらえたい。年間を通して、教職員一人ひとりが、学生の成長のためにふさわしいと思う様々な機会・計画を提案し、皆で考え・実行し、学科を超えて協力していく。

具体的方法

- (1) 学生の国語力アップに関して、全学体制で臨む。
- (2) リハビリセンター白鳥をはじめとする新生グループの諸事業所と協力して、体験を通して多職種連携を学ぶ機会を数多くつくる。
- (3) 学生の特性に応じた授業実現のため、教職員による研究会・勉強会を定期的に開催する。(1回/月)

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) . 教育理念・目標 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価	関係者評価	現状、課題及び改善策
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	4	・法人理念のもと、学校の目的・育成人材像を明確にしている。学生に対しては、学生便覧・パンフレット・ホームページ・サンビ便り（学校だより）への明記のほか、様々な機会を通して説明している。保護者全体への説明は入学式、式典後の保護者説明会及び11月の保護者懇談会であった。11月の保護者懇談会では2、3年生の保護者と今後の実習や就職などについて話をする時期としてはやや適切さに欠けた。次年度の保護者懇談会は8月に実施する。 ・本校の職業教育の特色として、基本的な職業教育を設置法人の近隣施設と協力して実施している。
・学校における職業教育の特色は何か	4	4	
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	4	
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか	4	4	
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	4	
【学校関係者評価】 自己評価、現状、課題及び改善策に特段の問題はない。			

(2) . 学校運営

評価項目	自己評価	関係者評価	現状、課題及び改善策
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	4	・毎年、設置法人全体で事業計画を立て、運営している。本年度の法人のキーワードは「壁を超える」。それに対する学校の目標を「学生の学修を、学科を超えて支える」とし、学科の垣根を越えて情報共有してきた。 ・諸規定により、意思決定機能が明確化されている。ただし、学則に学校運営会議の業務は記載されているが、構成員については「別に定める」となっているだけで、具体的な記載がない。今後細則において規定する必要がある。 ・業界とは教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会及び各業界団体への参加により、よりよい活動を目指している。 ・学校評価については、2020年度に学則記載する準備をした。 ・学校概要、自己評価、学校評価を学校HPにおいて公表した。 ・業界での実習については、契約書、手引き等を通してコンプライアンス体制の整備に努めている。 ・地域とは、学校祭、防災訓練への校舎提供、地域文化である狂俳を通して交流を深めている。 ・教育活動の情報活動は、ホームページ、パンフレット、サンビだよりを通して行っている。 ・学生の様子等は、グループ内ネットワークであるサイボウズを使用して速やかに情報共有を行った。これにより多くの情報をもとに学生のアセスメントが可能となった。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	4	
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3	3	
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	4	
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	4	
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3	3	

・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3	3	・学内では紙媒体を用いての情報共有、業務が主となっており、IT化による業務効率が低い状態であり、今後業務の効率化について検討を進める必要がある。
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	4	
【学校関係者評価】 自己評価、現状、課題及び改善策に特段の問題はない。			

(3) . 教育活動

評価項目	自己評価	関係者評価	現状、課題 及び改善策
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4	<p>・教育内容、到達レベルについては学生便覧及びシラバスにより明確にしている。また、学年の特性を踏まえ、補講及び個別指導等を実施し、到達目標レベルまで引き上げるよう工夫している。その上で教職員の振り返り、学生面談及び学生アンケートを実施し、学生のニーズをも取り入れ改善に向け努力している。しかし、指導内容の検討及び実施を学科毎に行ってきたため、多大な時間を要した。今後は、様々な指導法を学校全体で取り組むことで、効率的な指導が行われるようにする必要がある。また、指導の効率化によって、教員の授業準備、教材研究、研修に多くの時間が取れるように工夫する必要がある。</p> <p>・これまでリハビリセンター白鳥との間では2か月に1回会議をもち、スムーズな現場教育ができるようにしてきた。その一環として介護福祉学科では授業外の自主的な現場での課題解決実習をリハビリセンター白鳥で行い成果を上げた。</p> <p>・国語力に課題のある学生に対し、個別で評価し、その対応を行っている。ただし、2020年度から留学生を受け入れることになるため、日本語能力をはじめとする様々な点について指導方法を検討していく必要がある。</p> <p>・国語力向上については各学科における対応にとどまっておらず、今後は全学科体制で取り組んでいく。</p> <p>・授業評価については、他教員が見学する形で実施している。</p> <p>・業界での実習のみならず、地域の中で学生を育てるために、地域のこども園・障害者施設での実習、多職種連携教育（IPE）、地元白鳥地区での狂俳学習、陽の里まつり等を行い、地元の方々との交流を図った。</p> <p>・学生便覧p.3学則第16～18条、p.10学則施行細則第2条、第5条～18条により明確にし、成績判定会議（運営会議）にて協議の上、校長が認定する。</p> <p>・研修の決まりは申し合わせ事項としてあるが、規則等に規定されていない。研修規程の整備とともに、研修状況の把握に努める必要がある。実際、職員研修の内容は専門分野に偏り、教育方法論等についての研修は行われていない。質の高い教育のためには教育原理・方法についても学ぶ必要がある。</p> <p>・教員確保については、校長・総学科長を中心に学校全体として実施している。しかし、医師担当分野で医師の確保に苦慮している。</p> <p>・各学科単位、随時行われる打ち合わせ等において、学生の特性を理解するための課題検討を行っている。今後は定期的な研究会・勉強会を開催できるよう検討を行う</p> <p>・土会活動に参加をしているが、卒業生の卒業後教育として、明確な位置づけをしていない。</p>
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4	
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4	
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか	4	4	
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	4	
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	4	
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3	3	
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4	
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4	
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4	
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	4	
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3	3	
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	3	3	
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	3	
【学校関係者評価】 自己評価、現状、課題及び改善策に特段の問題はない。 国語力アップにより、日常生活・精神的安定・国家試験の合格率が向上することは、理解できた。なるべく早い段階で国語力がアップするようにしてほしい。 国語力の説明をしてほしい。 学校からの回答：不足している国語力の内容は、小学校2年から4年の学習のほんの一部であるが、学生により異なる。また、最近の傾向として、具体的イメージがなくても分かったような気になる学生が多い。 しかも、そのような学生は、国語に課題があることを認識できない傾向にあり、国家試験直前に国語の再学習することになる。 今、小学校5年生では日本語の単語と外国語の単語が1対1でないことを学んでいる。留学生指導について、このような理解が受け入れ側に必要と思われる。			

(4) . 学修成果

評価項目	自己評価	関係者評価	現状、課題 及び改善策
・就職率の向上が図られているか	4	4	・就職率は対就職希望者において100%で、資格取得率もすべての学科において全国平均を上回っている。 ・H26年からの入試内容の検討、日常的な国語基礎力向上への様々な工夫、認知特性の発見と日々の学習への応用、学生面談、保護者との連携を行い、平成30年度以降の退学率は8%前後を維持している。 ・卒業生の活動状況の概要は把握できている。しかし学校教育へのフィードバックが不十分である。次年度も、卒業生の就労・活動状況を把握し、整理する必要がある。
・資格取得率の向上が図られているか	4	4	
・退学率の低減が図られているか	4	4	
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	4	
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	4	
【学校関係者評価】 自己評価、現状、課題及び改善策に特段の問題はない。 現場で生きる知識や技術を提供しながら、退学率を8%前後にし、しかも高い国家試験合格率を維持することは大変かもしれないが、今後も同様の成果が出るよう工夫をしてほしい。			

(5) . 学生支援

評価項目	自己評価	関係者評価	現状、課題 及び改善策
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4	・学生指導の基本情報として学籍簿、個人記録、健康記録を整理している。 ・学生への支援体制として担任制をしいているが、学生には相談したい教職員にいつでも相談できることも伝えている。 ・保護者懇談会に加え、随時個別面談を実施するなど、保護者との連携に務めている。教育理念の浸透だけでなく学生の生活環境把握のためにも保護者会を定期的開催していく必要がある。 ・下宿・アパートに関しては信頼できる不動産業者にアパート情報を提供していただいている。 ・設置法人グループでは様々な奨学金制度を整え、頑張る学生を支援している。 ・保護者懇談会に加え、随時個別面談を実施するなど、保護者との連携に務めている。 ・卒業生への支援体制はないが、相談に来る卒業生が多く、積極的に対応している。今後は卒業生に必要な情報ページをホームページに作成することから始めたい。また、卒後教育については各士会と連携強化していきたい。 高専連携として高校等に対し出張講義やリハビリセンター白鳥と共同開催をしたインターシップを実施した。また、県が言語聴覚士会と連携して高校に啓蒙活動を行っているが、学校として協力している。 ・県作業療法士会と連携し、卒業前に職能団体の活動意義について説明する機会を持ち、卒後の生涯学習への意識を高めるように工夫している。 ・介護福祉士についての広報（魅力を発信）、啓蒙は学校が県や自治体といった行政及び地域を巻き込む形で行うようにした。
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	4	
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	4	
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4	
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	4	
・学生の生活環境への支援は行われているか	3	3	
・保護者と適切に連携しているか	3	3	
・卒業生への支援体制はあるか	3	3	
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	3	
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	4	
【学校関係者評価】 自己評価、現状、課題及び改善策に特段の問題はない。 保護者との連携を大切に、家庭も巻き込んで学生の教育を進めていることは良いと思う。			

(6) . 教育環境

評価項目	自己評価	関係者評価	現状、課題 及び改善策
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	3	・全館Wi-Fi整備し、学生がいつでも情報を入手し、授業でも活用できる環境を整えている。また、教育機器の買替時期に来ているものがあり、今後計画的な更新を検討していきたい。 ・図書室の書架整理を行い、学生が利用しやすい図書室作りに向けて工夫している。 ・教育機器については必要に応じて修理・整備を行っている。 ・実習については、実習地と目標、学生情報を共有するようにしている。
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	4	

・防災に対する体制は整備されているか	3	3	・教職員2名が防火管理者講習を受講し、学校内の防火管理体制の充実を図っている。しかし、防災マニュアルが不十分であるため整備していきたい。
<p>【学校関係者評価】</p> <p>防災を除き自己評価、現状、課題及び改善策に特段の問題はない。</p> <p>Wi-Fiの教育活動におけるメリット、デメリットについて理解が進むようにしてほしい。玉石混合の情報の中から正しい情報をえるために、意図的に誤った情報に触れさせ、WEB上の情報や活字になっている情報を精査する態度を養ってほしい。</p> <p>昨年Wi-Fi整備したことにより、新型コロナウイルス対策としてZOOMの準備ができたことは大変良かった。</p> <p>防災に関して、少なくとも授業中に災害が発生した場合の具体的対策を早急に設定してほしい。</p>			

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目	自己評価	関係者評価	現状、課題 及び改善策
・学生募集活動は、適正に行われているか	4	4	<p>・学生募集は、誇大表現することなく適正に行っているが、教育成果を伝えきれていない。</p> <p>・暗記から理解へと学習方法の転換を図り、学習成果が実践現場で役立つようにしている。その成果として高い国家試験合格率を維持している。このことをしっかり外部に伝えるための工夫が課題となっている。一方法として卒業生の声を集め、発信する必要がある。</p> <p>・介護福祉士の魅力を学校単独ではなく、県や自治体といった行政及び地域と一緒に進めていく必要がある。また、介護への優秀な外国人の受入は急務のため、留学生の募集を積極的に行う必要がある。</p> <p>・学納金は、募集要項に記載したもの以外徴収していない。学納金については全国的にみて、最も安い学校に位置している。</p>
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	3	
・学納金は妥当なものとなっているか	4	4	
<p>【学校関係者評価】</p> <p>自己評価、現状、課題及び改善策に特段の問題はない。</p> <p>きめ細かな指導で、退学率の低下・国家試験の高い合格率を維持しているが、親や高校の先生方への具体的情報伝達の方法を検討してほしい。</p>			

(8) . 財務

評価項目	自己評価	関係者評価	現状、課題 及び改善策
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	3	<p>・学校部門は学生数の減少で厳しい状況であるが、法人全体では健全経営で財務基盤は安定している。まずは、本校単独の損益分岐点となるまで、学生数を増やすとともに経費節減、特に光熱費の削減を計画的に実施したい。</p> <p>・法人として法令に従い情報公開している。</p>
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	3	
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	4	
・財務情報公開の体制整備はできているか	3	3	
<p>【学校関係者評価】</p> <p>自己評価、現状、課題及び改善策に特段の問題はない。</p>			

(9) . 法令等の遵守

評価項目	自己評価	関係者評価	現状、課題 及び改善策
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4	<p>・個人情報の中でも、特に成績についてはPC上で保存していない。成績以外の情報管理について、さらに検討する必要がある。</p> <p>・自己評価については、専修学校学校評価ガイドラインに沿って実施し、問題点の改善に努めてきた。自己点検票は学校HP上で公表を行っている。</p>
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	3	
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	4	
・自己評価結果を公開しているか	4	4	

【学校関係者評価】

自己評価、現状、課題及び改善策に特段の問題はない。

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価	関係者評価	現状、課題 及び改善策
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	4	・福祉＝3Kというイメージ払拭し、「介護の魅力」を発信するためのバスツアーを実施した。 ・NPO法人主催の健康教室や、自主的な子育て講座などに学校施設を開放している。 ・キッズセミナーでOT・STの魅力を小学生に発信している。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	4	・子ども向け運動教室では、地域の子どもを対象に運動する機会を提供している。 ・ボランティアについてはボランティア委員会を中心に支援している。 ・離職者等委託訓練実施事業を実施している。 ・介護職員または一般に向けたスキルアップセミナーを年間を通じて開催している。また、町内の認知症カフェでの勉強会に講師として定期的に出向いている。
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	4	・白鳥地区内で伝統的に行われている狂俳の創作に参加している。 ・貢献活動に優先順位を付け、計画的に実施していく必要がある。

【学校関係者評価】

自己評価、現状、課題及び改善策に特段の問題はない。

(11) . 国際交流

評価項目	自己評価	関係者評価	現状、課題 及び改善策
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	4	・留学生については日本語検定N2という介護協の基準に従って進めてきたが、現実的でないためN2相当とし、ベトナムを対象に広報をしてきた。しかし、外国での募集には課題が多いことがわかり、ベトナムに対して今後どのように進めるか検討する必要がある。 ・岐阜・西濃地域の日本語学校と連携を図り、日本語能力があり介護職に関する適性があると判断される者を受け入れする体制を整えた。 ・ベトナム語、中国語による学校紹介用の動画を作成中である。

【学校関係者評価】

自己評価、課題及び改善策に特段の問題はない。

留学生の受け入れは、優秀な介護人材確保のみならず多様性の理解を進めるうえでも大変重要なことである。教育成果が上がるようお願いしたい。